○内宮おはらい町地区の景観形成について

～生活のにおいのするまちづくり～

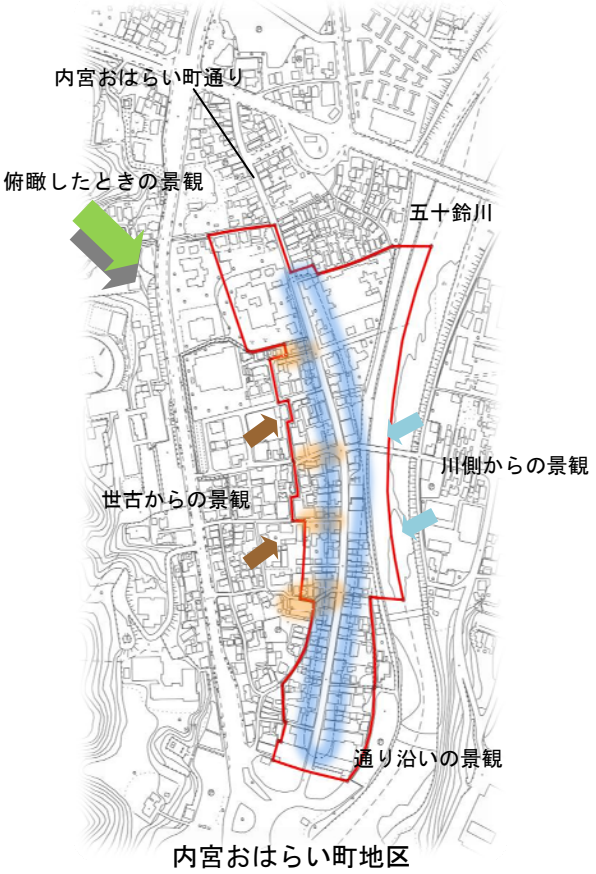
内宮おはらい町地区は、内宮の鳥居前町として発展してきました。清流五十鈴川に沿って、内宮宇治橋から北へと伸びる約 740m の参宮街道がおはらい町通りです。この通り沿いには明治の初め頃まで御師の館が建ち並び、神宮に代わって神楽を上げていたことから「おはらい町」と呼ばれるようになりました。

おはらい町の建物は明治期以降に建てられたものが多く、まちなみの特徴として、切妻・妻入りであることが上げられます。平入りのまちなみが「連続性」を感じさせるのに対して、妻入りのまちなみは「リズム感」を感じさせます。

しかしながら、このまちなみは、時代の流れによって失われつつありました。そこで、地元住民の皆様自らが立ち上がり、昭和 54 年、まちなみの保全・再生のため「内宮門前町再開発委員会」を結成し、まちなみ保全運動を開始しました。平成元年、市では「伊勢市まちなみ保全条例」を制定し、市民と行政の協働で歴史的なまちなみの保全・再生を進めてきました。

おはらい町でのまちづくりは「凍結保存ではなく、生活する場として、往時のまちなみを再生」を基本理念に掲げ、新たに再生しながら伝統あるものを残していく、住民の生活を損なうことなく往時のまちなみを再生する「生活のにおいのするまちづくり」が特徴です。

その後、平成 21 年 10 月１日から運用を開始した「伊勢市景観計画」では、内宮おはらい町地区を「重点地区」に指定し、また、都市計画の地域地区のひとつである「景観地区」にも重複指定し、より積極的に景観の形成を進めています。



内宮おはらい町地区では、『生成り』を基本として景観の形成に取り組んでいます。

内宮おはらい町通りからの景観だけでなく、『景観地区』として、公共空間から通常望見できる範囲、例えば、五十鈴川側からの景観、世古からの景観、俯瞰した場合の景観などにも配慮して、良好な景観の形成を進めています。

内宮おはらい町通りに面しては『切妻・妻入り』として、のこぎり状の家並みが続く景観となるよう配慮し、世古に面している場合は、俯瞰した場合の景観に配慮して『切妻・平入り』としています。

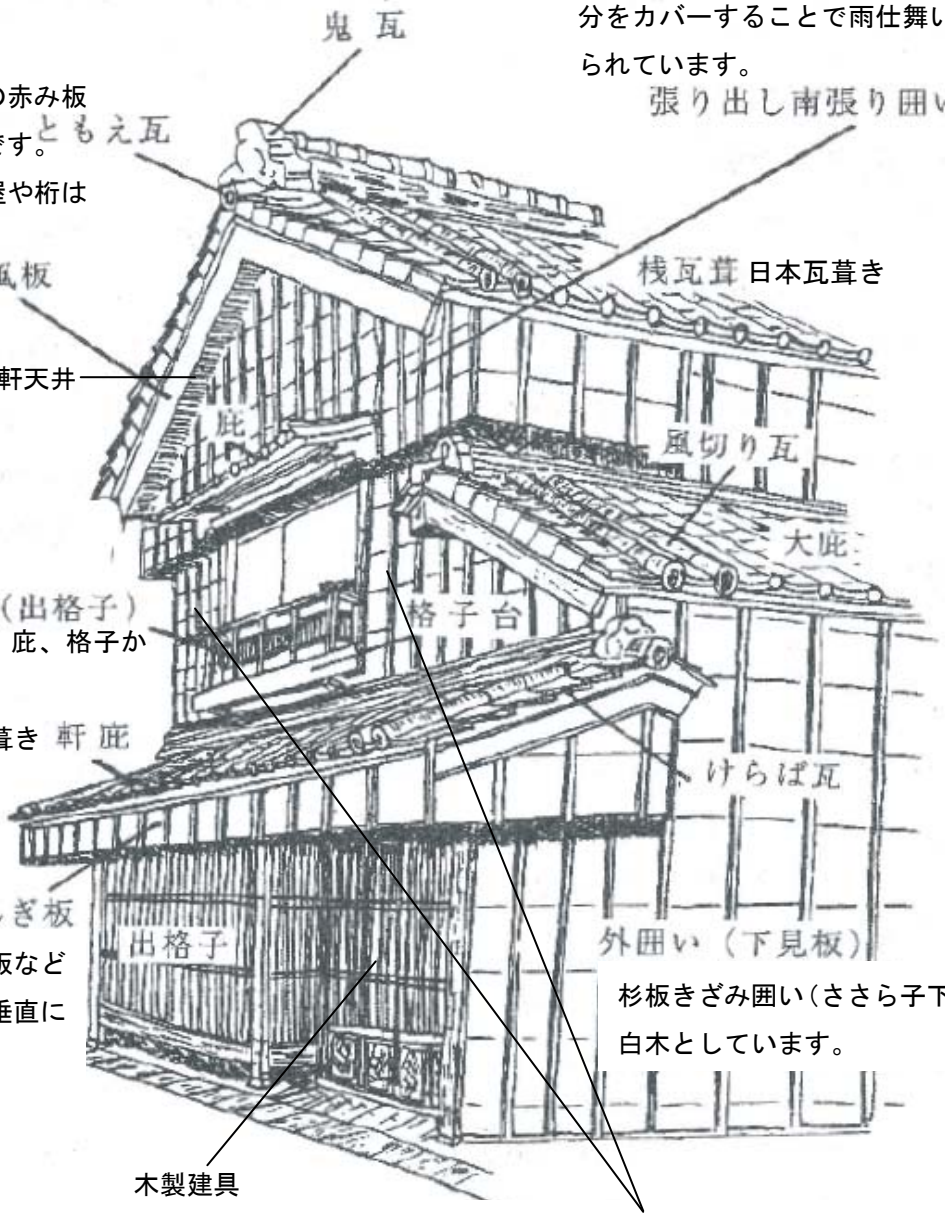
○伊勢の町屋の形態意匠について

構造：木造
切妻・妻入りまたは入母屋
２階建て

雨が比較的多い地域であるため、雨仕舞を施す形態意匠が伊勢の町屋の大きな特徴となっています。

張り出し南張り囲いは、外壁が 30cm ほど張り出しています。平側へも 90cm ほど回り込んだり、四面に設けられることもあります。
外壁を張り出して軒裏、地棟梁や小屋梁の突出部分をカバーすることで雨仕舞いをしていると考えられています。

ヒノキやケヤキなどの赤み板で大きい幅の破風板です。
軒天井が張られ、母屋や桁は隠れています。



日本瓦葺き

出格子は格子台、庇、格子から構成されます。

日本瓦葺き

きざみ囲いや、一枚板などさまざまで、軒先に垂直に取り付けられます。

杉板きざみ囲い（ささら子下見板張り）
白木としています。

木製建具

雨戸は両引き込みで、きざみ囲いの外壁内部に収納されます。